

学校法人みどり学園

《令和元年度財務の概要》

平素はみどり学園の発展のため、多くの皆様方からご支援ご協力を賜りありがとうございます。皆様のご厚情に応えるべく、関係者一同本学園の学校教育機能向上のため日々の業務に励んでおります。今後ともよろしくお願ひ申しあげます。

さて、本みどり学園の本年度(令和元年度)の財務の概要を報告いたします。

- 令和元年度よりみどり学園の短期大学に設置された松江キャンパス(保育・幼児教育学科)は、幼稚園教諭免許と保育士資格を2年間で取得できる私立短大を島根県にも生み出したことによって、本短期大学全体の在学生数も少し回復することができました。

事業活動収支は令和3年の堺市高倉台への移転をめざして、当初計画より膨らんだ賃借料の駅前学舎や遊休資産の売却整理などで基本金組入を上回る取崩が出たため、繰越収支差額は大学全体では△489,416千円となり、赤字を62.753千円少なくすることができました。

- 短期大学の学生募集では全体で107名の新生を迎え在籍者は202(別科性含まず)となりました。これは240名の定員の84.2%(前年度80.8%)です。本年度は大阪府離職者等再就職訓練事業(介護福祉士コース)、を開講したことによって定員割れを若干補いましたが、借入金の返済支出が大きく次年度への短大の支払資金は1.17億円と厳しいものになってしまいました。

- 短期大学設置18年目に入った本年度は、幼稚園を含む法人全体で203,179千円(昨年169,541千円)の学生生徒等納付金収入になりました。短大の学生数や教育研究経費の増加などで、国庫補助金は前年度より微増196,800千円となりました。特別寄付金も増え18,845千円となりました。

一方、経費の方は学舎の賃借料が大きく、経費全体としては学生数に対応する減額は望めず短期大学の教育活動収支差額は△90,640千円の赤字となりました。

法人全体では本年度の基本金取崩額174,887千円によって翌年度繰越収支差額は△351.924千円となり、赤字を31,694千円縮小することができました。

なお、短期大学では中長期的課題に努力することには変わりはありませんが、緊急課題として教育活動収支における経常的な教育活動収入で経常的な教育活動支出を賄い、翌年度繰越収支差額を少しでも黒字にしなければならないと思っています。

- 長・短期借入金では運転資金等として市中金融機関・その他から新たに170485千円を借入れ、本年度返済額265,087千円を返済し、残高は94,602減の293,182千円となりました。

また、短期大学部門の課題であった減価償却引当特定資産や退職給与引当特定資産の積立は、昨年同様次年度以降の課題とせざるを得ませんでした。

2020年6月1日

学校法人みどり学園
理事長 平尾達夫